

Title	大学におけるより良い海外派遣プログラムをめざして
Author(s)	片山, 歩
Citation	GLOCOLブックレット. 2014, 13, p. 58-59
Version Type	VoR
URL	<a href="https://hdl.handle.net/11094/50008">https://hdl.handle.net/11094/50008</a>
rights	
Note	

*Osaka University Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University



【第2章】

海外派遣支援団体の  
経験から



## 2-1 大学におけるより良い海外派遣 プログラムをめざして

### 片山 歩

大阪大学グローバルコラボレーションセンター特任事務職員

本章では、海外派遣支援に携わる様々な立場の担当者より、過去に経験した事例をもとに、海外派遣プログラムを企画、運営する際に参考となる視点をご紹介します。

第1節では、海外留学生安全対策協議会(JCSOS: Japanese Council for the Safety of Overseas Students)顧問、株式会社日本リスクマネジメント代表取締役の酒井悦嗣氏より、「日本の大学におけるリスク管理体制整備の動向」についてご寄稿いただいた。JCSOSは「海外で学ぶ日本人学生の安全を図るために、学生や大学等の教育機関に対して、危機管理セミナーの実施や海外安全情報の提供等を行い、学生の海外留学における我が国の安全対策体制の確立に寄与することを目的とする<sup>1)</sup>」特定非営利活動法人である。2013年8月現在、日本全国の国公私立大学ほか132団体が加盟している。

第2節では、エスエーエフ・スタディ・アブロード・ファウンデーション(SAF: The Study Abroad Foundation)日本事務局の副ディレクターの松田晴子氏に「派遣支援団体から見る各国事務所の派遣体制やリスク管理の特徴、日本の学生および大学の特徴」についてご紹介いただいた。SAFは2000年に米国インディアナ州で設立された非営利教育機関で、「中国、台湾、日本、韓国のSAFメンバー大学に在籍する学生に授業履修プログラム、語学力強化プログラム、国際キャリア開発プログラム(アカデミック・インターンシップ)を含む幅広い留学プログラムを提供することを目的<sup>2)</sup>」としており、個別の留学支援に加え、大学と連携した留学プログラム開発も行っている。

第3節では、大学教育における「海外体験学習」研究会(JOELN)に設立当初から尽力されている明治学院大学国際学部准教授の齋藤百合子氏に、「大学の海外派遣プログラム担当者としてのリスク管理」を、長年にわたり大学での海外体験学習プログラムの運営やリスク管理を行ってきた事例をふまえて寄せていただいた。JOELNは2004年に設立され、「海外体験学習の教育目的・目標、内容・方法、効果・評価、危機管理、あるいは関係機関・団体との協働など幅広い課題<sup>3)</sup>」に取り組んでいる。年次研究大会では毎年、日本全国の国公私立大学等担当者が集い、教職員間の意見交換が行われている。

それぞれ立場は異なるが、ご紹介いただいた経験やご意見は、海外派遣時のリスク管理を考える際の課題として重なる部分が多い。現場で活動する担当者、責任を負う大学組織中枢部、プログラム運営において協働する外部機関、それぞれがしっかりとリスク管理についての知識や意識を高めて連携し、そのうえで提供されるリスク管理サービスを効果的に活用することで、実際に機能するリスク管理体制に近づけるのではないかと。以下に示された視点を参考にしながら、今後もより良い海外派遣プログラムの体制づくりを進めていきたい。

1 JCSOSウェブサイト([http://www.jcsos.org/overview\\_c.html](http://www.jcsos.org/overview_c.html)) (2013/11/19 アクセス)。  
2 SAFウェブサイト([http://japan.studyabroadfoundation.org/about\\_saf/index.php](http://japan.studyabroadfoundation.org/about_saf/index.php)) (2013/11/19 アクセス)。

3 JOELNウェブサイト(<http://joeln.jp/concept.html>) (2013/11/19 アクセス)。